

「理解」とは何か

—「授業中の理解」を考える—

Q：授業中の「理解」のためには、どのような方法を取ったらよいのでしょうか。できるだけ具体的に教えて下さい。

A：(1)はい、わかりました。背筋をピンと伸ばし、手を机の上に置いて、先生の目を見ながら、先生のお話じつと耳を傾ける。これが、授業中に先生のお話を聞く基本姿勢です。

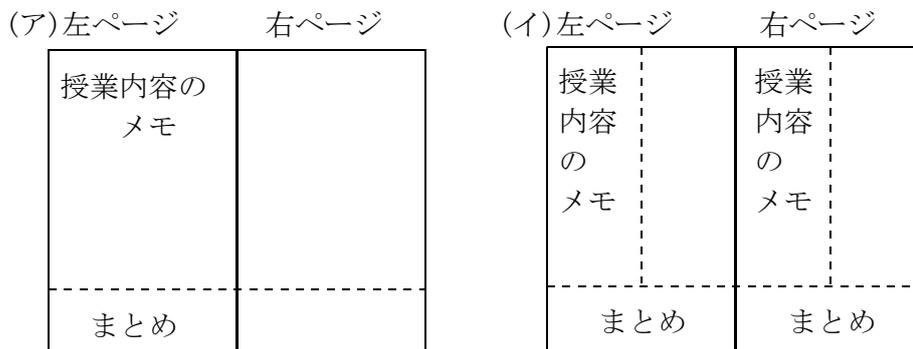
(2)①先生が黒板に書いたこと、つまり、板書事項はもとより、先生が授業中にお話した大切なことは、どんどんノートにメモを取り続けることも大切です。

②ノートを取るときは、あとでノートにメモしたことをスミからスミまですべて覚えることを頭に置いて、覚えやすいように工夫をしながら取りましょう。

③また、あとで調べたことをメモできるように、ノートの左ページに授業内容をメモし、右ページをは空けておくとか、ノートの1ページの左側に授業内容をメモし、右側は空欄にしておくなどの工夫をすることも心がけましょう。

④ノートの各ページの下のほうを4分の1か、5分の1ぐらい予め空けておき、大切なことをまとめるために用いることも工夫の一つです。

⑤以上をまとめると、ノートの取り方として次の2つの形が考えられます。



Q：「理解」するために授業中にしたほうがよいことは何ですか。

A：(1)まずは、姿勢を正して、手を机の上に置き、先生の目を見て先生の説明を一語一句聞き漏らさないように真剣な態度で授業に臨み、板書事項と先生の説明で大切なことは細大漏らさず(細かいことも大きいこともすべて漏らすことなく)ノートにメモをする。

(2)授業中にすべきことは、先生の説明をお聞きすることだけではありません。これに加えて、先生の指示通りに積極的に授業に参加することです。問題をも自分で解く、友達と話し合う、ペア・ワークをする、実験・観察をする、実技科目ではよくできるようになるまで練習をするなどなど、先生の指示で授業中にやるべきことはたくさんあります。これらはすべて「理解」に直結します。

Q：授業中の「理解」の妨げになるため、しないほうがよいこと、避けたほうがよいことはありますか。

A：よい質問ですね。たくさんありますが、大切なことばかりですので、一つ一つ御説明いたします。

(1)授業を「欠席」、「遅刻」、「早退」すること。

- ①せっかく、先生が授業の計画を立て、準備をなさっても、生徒が欠席や遅刻、早退をしてその場に存在しなければ、授業を通して教えることはできません。教室に生徒がいなければ、教えるべきものごとを「理解」してもらうことはできません。
- ②だから、「欠席」、「遅刻」、「早退」はできるだけ避け、しないように努力することが求められます。
- ③では、どうしたら「欠席」、「遅刻」、「早退」を無くすことができるのか。御自分で考え、少しずつでも実行して下さいね。例えば遅刻を無くすためにすべきことは、授業のある教室には授業 5 分前までに到着することを心がけることに尽きます。移動などでいくら忙しいときでも、授業 1～2 分前に到着することを心がけること以外にありません。
- ④そのためには、「手帳」をよく見てその日の「授業時間割」を前日によく頭に入れておくこと、朝、学校に出掛けるときにも、「手帳」をよく見てその日の「授業時間割」を確認、学校に到着してからも、その日の「授業時間割」を「手帳」で確認、一つの授業が終了したら、次の「授業」を「手帳」で確認することです。
- ⑤学年が上になるに従い、科目ごとに教えて下さる先生と授業のある教室が別々になってきますので、「手帳」に 1 週間分のスケジュールである「授業時間割」をしっかりと書き記し、自分自身で前日、その朝、登校時、1 つの授業の終了時にいちいち今後の予定を確認することが求められます。
- ⑥学校自体の始業に遅刻しないためにはどうするか。学校の教室にホームルームの 20～30 分前に到着するよう、少し早めに家を出発する以外にありません。10 分前到着を目指して家を出たのでは、登校途中に何があるかわかりませんので、遅刻をする可能性が大きくなります。できれば 20～30 分前に教室に到着するよう家を出発して下さいね。そのためにはどうするか。身繕い、食事、トイレなどを余裕をもって行えるよう、起床時間をお考え下さい。朝、余裕をもって起床するためには、夜更かしをしないことが大事です。前日には翌日の授業時間割を確認し、忘れ物をしないようにカバンの中をチェックしておくことも大切です。
- ⑦私がお勧めするのは、「早寝、早起き、朝ごはん」です。夜は少し早く寝、朝は少し早く起き、少しゆっくりと朝ごはんを食べ、20～30 分前に教室に到着できるように少し早めに学校に向けて出発することを心がけましょう。「朝ごはん」は少しでもよいですから必ず食べてから学校に出発して下さい。「ごはん」や「パン」、「コーンフレーク」などの「炭水化物」は 1 日のエネルギー源として欠かすことができません。「炭水化物」以外にも「朝ごはん」として適切な食品を、たとえ少しずつでもよいですから必ずお摂り下さい。
- ⑧この「始業時間の 20～30 分前に学校の教室に到着すること」は大切な能力と考えます。「始業時間前に到着する能力」は、高校や大学、大学院など上級学校に進学したあとも役立ちます。社会に出て仕事や社会的活動をするときにも役立ちます。「約束を守る」ことの中には、「約束の時間」の少し前に「約束した場所に到着する」ことも入っています。忙しい中、お互いが努力をして「約束の時間」に「約束した場所」に到着して初めて、コミュニケーションが成立します。「約束の時間」の前に到着することは、「信頼」の第一歩です。学校の授業に遅刻しないことは、社会に出て活動することのすばらしい準備となります。

Q：そうですね。「欠席」、「遅刻」、「早退」以外に「理解」の妨げになることはありますか。

A：(1)「忘れ物」、「おしゃべり」、「居眠り」、「ケータイ」、「授業以外のことをしたり、考えたりすること」など、まだまだたくさんあります。

(2)授業に必要なものを忘れる、つまり「忘れ物」をするとどうなるか。各教科の「教科書」、「教材」、「問題集」、「ノート」、「辞書」などを授業に持参するのを忘れてしまうと、先生

が教科書などを用いて説明する場合によくわからなくなり、「理解」の妨げになり、学力が身に付かないという結果になります。

- (3)「忘れ物」をしないためにはどうしたらよいか。授業の前日には「手帳」の「時間割表」を見て、翌日の授業科目を確認し、必要なものをいちいち確認しながらカバンの中に入れることが大切です。その最終確認をその日の朝、学校に出掛ける前に行うことも大切です。

Q：私は忘れ物が多いのですが、根本的な対策を教えてください。

A：(1)一番お勧めするのは、「5S(ごえす)」です。

(2)「5S」というのは、工場など製造業で仕事をする人たちが、仕事の仕方を工夫し、よい製品をつくるために「改善活動」を行う中で考え出した仕事の方法の一つです。今では、工場だけでなく、事務所やサービス産業、医療や福祉、介護施設でもさかんに用いられています。私は先日、横須賀の海上自衛隊を視察したときに護衛艦「おおなみ」の中を見学させて頂きましたが、「5S」が徹底的に行われていました。

(3)5Sとは「整理」「整頓」「清掃」「清潔」「躰」をいいます。この5つは、ローマ字で書くと「Seiri」「Seiton」「Seisou」「Seiketsu」「Sitsuke」となり、すべてアルファベットの「S(エス)」で始まるので「5つのS(エス)」、「5S」といいます。

(4)「改善活動」に用いられる「5S」のひとつひとつのことばは、特別な意味で用いられます。

①「整理」とは、「不要なものを処分する(捨てる)こと」。

②「整頓」とは、「ものは決められたところに必ず置くこと」。

③「清掃」とは、「掃除をすること」。*ほこりを払いピカピカにみがき上げること。

④「清潔」とは、①～③の状態を保つこと。

⑤「躰」とは、①～④を人から言われなくても自分の意志で行うこと。

*ふつう「5S」はこの順序で説明されることが多いのですが、②と③を入れかえて、「整頓」の前に「清掃」をするほうがよいと私は思います。

(5)カバンの中や机の中、机の上、本棚、自分の勉強スペースから

①不要なものをすべて捨てるのが「整理」

②「整理」が終わったら、カバンの中、机の中、机の上、本棚、自分の勉強スペースを「清掃」、きれいに掃除してピカピカにしましょう。

③「清掃」つまり「掃除」ができれば、どこに何を置くかを決め、必要なものは決まった場所に置くことをお勧めします。「必要なものはどこに置くかを決めておく」ことができれば、「必要なものを探さないですっと取り出すことができる」ようになります。ものを探す時間が大幅に減ります。忘れ物も大幅に減ります。

④この①～③をやり続けると、カバンの中、机の上、机の中、本棚、勉強スペースなどが「清潔」になります。

⑤①～④を誰かに言われたからやるのではなく、自分の意志、考えでやることを「躰」といいます。これが身に付き習慣になることを「躰が身に付いた」というのだと私は考えます。「忘れ物」も減り、「忘れ物」ゼロになりますよ。

Q：「おしゃべり」、「居眠り」、「ケータイ」、「授業以外のことをしたり、考えたりすること」も「理解」の妨げになるので、しないほうがよいのですね。

A：(1)その通りです。「おしゃべり(私語)」は「おしゃべり」をしている人、話しかけられた人など全員が授業中に先生の話聞いていないのですから、「理解」の妨げになります。また、おしゃべりの声が先生のかき消してしまい、おしゃべりに参加していない他の生徒の「理解」の妨げになります。「おしゃべり」をする人が存在すると、先生も授業に集中できませ

ん。以上のようなことを引き起こす「おしゃべり」は、「授業妨害」と考えます。私は、「授業妨害」の「おしゃべり」は授業中はすべきではないと考えます。

(2)「居眠り」、「ケータイ」、「授業以外のことをしたり、考えたりすること」も授業の「理解」の妨げになります。また、そのような生徒が存在すると、他の生徒や先生の「やる気」を失わせる直接の原因となりますので、「おしゃべり」と同様、「授業妨害」と私は考えます。

Q：よくわかりました。おっしゃることはよくわかり、時々反省はするのですが、どうしても授業に集中できません。はっきり言って、なぜこのような科目を勉強するのかよくわかりません。今やっている勉強や受験勉強は、上の学校に進学したときや世の中に出てから役に立つのですか。

A：(1)それは困りましたね。今、皆様が勉強しているすべての科目は、上級学校に進学してすべて役立ちます。社会に出てすべて役に立ちます。学校で勉強していることで役に立たないことは1つありません。受験勉強は、今まで勉強してきたことで不確かであったことを確実に「理解」し「定着」させるために行うものと考えれば、上級学校に進学しても社会に出てもすべて役に立ちます。受験勉強ほど各科目の「理解」や「定着」に役立つことはないと思います。

(2)なぜ、今やっている中学校の勉強は上の学校である高校に進学したときに役に立つのか。なぜ、今やっている高校の勉強は大学に進学したときに役に立つのか。答えはよく考えれば簡単です。高校の勉強は、中学校の勉強内容をよく「理解」し「定着」させていることを前提としているからです。大学の勉強は、高校の勉強を前提にしているからです。高校生なのに中学校の勉強が不足していたり、大学生なのに高校の勉強が不足していたのでは、勉強内容がよくわからないことになります。もう一度、前の学校の勉強をやり直さない限り、上の学校の勉強を行うことは難しくなります。

(3)社会に出てからも学校の勉強はすべて役立ちます。受験勉強で学んだこともすべて役立ちます。役に立たないことはありません。安心して勉強して下さいね。

(4)何のために学ぶのか、何のために受験勉強をするのか、自分自身の力でしっかりと考えましょうね。私の考えは、自分に与えられた仕事や社会的活動をして、「世の中のために役に立つ人になるため」です。役に立つレベルにまでいくには、学校で今やっている勉強をしっかりとすること、学校での様々な活動を1つ1つしっかりとやることに尽きます。受験生は、受験勉強を、これまでの勉強であやふやで不確かだったことを確実に「理解」して身に付ける、「定着」した上で希望校に進学するために行うものと積極的にとらえることです。

Q：最後に一言どうぞ。

A：「あきらめたらおしまい」。「自分の未来は自分で切り開く」。「自己責任」。「自助努力」。これ以外にありません。

皆様はどうお考えですか。

— 2012年8月23日加筆訂正 林明夫記 —